

「ちからの経営」設計書の策定事例③

福岡県中小企業団体中央会は、経営理念、企業文化、技術・ノウハウ、ネットワーク等、無形の「ちから」を活用した企業経営を「ちからの経営」と呼び、これらの「ちから」を活かした取り組みを「ちからの経営」設計書にまとめ、企業内外に開示する取り組みを支援しています。

今月号は、平成23年5月に「ちからの経営」設計書を完成した株式会社ISM (アイエスエム) (福岡市)の事例を取り上げ、作成担当者である諫見社長へのインタビューを掲載しています。

会社設立早々に設計書を作成

「この設計書を作成してほんとに良かった。これを見せると周りから『すごいね』と褒められるんですよ。」と話すのは、A5版に印刷した設計書をいつもカバンに入れて各地を飛び回っているISMの諫見社長です。

20数年勤めた会社の常務という職を投げ打って新会社を設立したのは昨年10月のこと。「周りには反対ばかりでした。」にもかかわらず、なぜ?という問いには、「どうしても自分らしい会社を作り上げたかったんです。」

本年5月に出来上がった「ちからの経営」設計書には、諫見社長の熱い思いが随所に散りば

められています。

「自分の気持ちは、いろいろな機会に話しはするのですが、やはりこうして1冊の形にまとめると、これを渡すだけで自分という人間を理解してもらえるし、会社の理念や現在の事業内容もきちんと伝えることができます。それと、創業したばかりで、社員の気持ちの中には不安も渦巻いているのですが、会社の進むべき方向を示すことで、最近はモチベーションもあがってきたようです。」

私たちが訪問した日は、設立以来最高額の受注をした記念すべき日に重なり、全員の力を結集して大きな成果を勝ち取ったことで、15坪ほどのオフィスには明るい笑顔が溢れていました。



プロジェクト型のビジネス展開

ISMは、日本医師会が開発したレセプトコンピュータシステムの販売と保守を手掛けるIT企業で、夢は、環境・健康事業とITの融合分野、あるいは農漁業のIT化などの分野で貢献することです。そのビジネスモデルは、自社の中に必要な要員を抱えるのではなく、状況に応じて他社の資源とマッチングしながら事業展開していく、いわゆるプロジェクト型を志向しています。

「たとえば、ここに100万円の仕事があったとします。これを自社ですべてやってしまうのではなく、一緒にやれる周りの10社と分かち合いながら事業を進めていく、これが私のめざすやり方なんです。」

「独占すれば、一時的には売上は上がります。でも長い眼で見れば10社でやったほうが発展性があります。それに独占すると困ったときに誰も助けてくれない。」

前職で営業活動に大きな業績を残した諫見社長の言葉だけに、ずっしりとした重みを感じます。

「甘いと言われるかもしれないけれど、これが私のやり方。だから絶対この会社は潰せない。」と話す表情には、固い決意がひそんでいました。



今年年頭の全社初詣風景（左から3人目が諫見社長）



北九州市スマートシティ実証実験の電気工事風景

日本の良き文化を活かす

長寿企業が世界一多い日本では、「三方よし」のことばにあらわれているように、古来、企業は共同の善を追及してきました。

日本の良き文化を大切にしながら、周囲にたくさんの喜びを生み出す企業にしたい、そう語る社長は、すでに「ちからの経営」設計書第2版の制作を視野に入れています。

「これを毎年作成していくことで、素晴らしい企業風土が生まれてくると信じています」

病院の待合室で長時間じっと待っている—そんな不便を解消するソフトなど、次々にユニークな商品を生み出すかたわら、北九州市のスマートシティ実証実験にも関与するという多彩な事業展開を行うISM。次はどんな設計書ができるのか、今からとても楽しみです。

企業概要

株式会社ISM
〒810-0035
福岡市南区向野2丁目4-17-101
TEL：092-554-2111
FAX：092-554-2131
URL：<http://www.ism.am>

（文責：中小企業診断士 藪田久恵）

「ちからの経営」HP：<http://chiikiryouku.biz/>

株式会社ISMの「ちからの経営」設計書も公開しています

「ちからの経営」設計書については企業支援室（092-622-8780）までご連絡下さい